

No.J2113

物流と交易から見た五胡十六国時代像の再検討

早稲田大学文学研究科 博士後期課程

峰雪 幸人

本研究は、従来、過度な収奪や無軌道な国家運営ばかりが強調されてきた五胡十六国時代の非漢族（胡族）国家の戦略を再検討しようとするものである。そのために本研究では、五胡十六国時代の主な舞台となる華北だけではなく、その周辺に位置する北アジア・中央アジアとの物流・交易に伴うヒト・モノの移動にも着目することで、国際的な政治状況と国家間の交通との関係性を明らかにし、当該時代の歴史展開をユーラシア世界の動向と結びつけようと考えた。そこで、遺跡の現地踏査と資料の収集・整理を主要な活動とし、これらの成果によって当該時代の交通路を明確にするとともに、当時の政治情勢や国際関係・物流を加味することで、交通路の変容と、胡族国家が如何にそれらを掌握しようとしたのかを分析し、胡族国家の興亡の新たな一面を明らかにする予定であった。

本研究を申請した際、申請者は、中国の北京大学に留学中であったが、新型コロナウイルスの流行により留学を中断し、一時帰国したまま、再渡航を待っている状態であった。当初の予定では、中国への再渡航がかない次第、北京を拠点に複数の遺跡、遺構や博物館を踏査する予定であった。ところが、残念ながら2021年度中は最後まで中国への渡航がかなわず、当初の予定であった現地踏査は行うことができなかった。

しかし、渡航待機中に踏査の下準備として、関連書籍や図録の収集・整理を行う中で、いくつかの発見があった。とくに、五胡十六国時代の後期に北アジアに勃興した遊牧勢力の柔然が、五胡十六国時代の末期の政治状況に大きく関与していた事、また、逆に柔然の勃興と拡大の様相が、五胡十六国時代の小国（西涼）の防衛体制の変容から明らかにできることが分かった。ここから、研究のいまだ少ない柔然の動向から五胡十六国時代の胡族国家の戦略を再検討するという本研究達成への新たな見通しを得ることができた。

以上の成果の一部と見通しは、オンライン上で開催された研究会で報告をおこなっており、今後は順次雑誌などに投稿していく予定である。